

一般社団法人 ヘルスケア・データサイエンス研究所

研究助成 成果 **概要** 報告書

(成果・概要のいずれかに○をつけてください)

助成年度	2024 年度
本研究期間	2024 年 12 月 1 日～2025 年 7 月 31 日
氏名	宇田 和宏
所属機関名 (助成決定時)	岡山大学病院・小児科 岡山大学学術研究院 医歯薬学域・小児医科学
職位・学位	小児科医員・医学士 大学院博士課程 4 年 (社会人大学院)
研究タイトル	アモキシシリンの供給制限が小児の急性気道感染症の処方実態に与えた影響の解析
キーワード	抗菌薬適正使用、小児、アモキシシリン、供給制限
研究概要	<p>薬剤耐性 (Antimicrobial Resistance : AMR) 対策は、国際的な公衆衛生上の重要な課題である。2016 年から薬剤耐性アクションプランが制定され、広域抗菌薬の削減目標が掲げられている。本邦では、第 3 世代セフェム系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬の処方が多く、狭域抗菌薬であるペニシリン系抗菌薬 (アモキシシリンが代表的薬剤) の処方が相対的に少ないことが指摘されている。</p> <p>国内の抗菌薬処方の 90%以上が経口抗菌薬であり、それらは主に外来で使用されている。したがって、処方頻度の高い一次診療の場面で抗菌薬の適正使用をどのように推進していくかが重要となる。2018 年 4 月から導入された「小児抗菌薬適正使用支援加算」の影響で徐々に抗菌薬処方適正化が進んでいると思われるが、そのような背景の中、<u>2023 年春からアモキシシリン (世界保健機関の AWaRe 分類の Access に該当する重要な薬剤) が供給制限となり、抗菌薬適正使用推進の足枷となりうる事態となった。</u>溶連菌性咽頭炎、急性副鼻腔炎・急性中耳炎の第一選択薬となっている本薬剤が小児の感染症の診療にどのような影響を与えたのかを評価することは重要と考えられ、本研究を立案した。</p>